

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

July 16, 2021

ZAR、暴動・CPI・SARB で不安定にも

- ◆豪ドル、雇用改善も労働時間減少などでもみ合いか
- ◆ZAR、暴動を発端にした南アの政情・経済不安が露呈されたことで上値が重い
- ◆ZAR、CPI と金融政策次第で不安定となる可能性も

予想レンジ

豪ドル円 81.00-86.00 円

南ア・ランド円 7.30-7.80 円

7月19日週の展望

豪ドルはもみ合いとなるか。今週行われたニュージーランド (NZ) 中央銀行 (RBNZ) の金融政策委員会 (MPC) では、「大規模資産買い入れプログラム (LSAP) を 23 日までに停止する」と金融緩和策の縮小を決定した。多くの国がテーパリングに向かっていることもあり、豪準備銀行 (RBA) の 11 月理事会への期待は高い。雇用統計は失業率も再び低下し、今年に入り 6.4%、5.8%、5.6%、5.5%、5.1%、4.9%となっている。新規雇用者数は概ね市場予想通りで、雇用だけを見ると RBA に対する期待は高まる。ただ、RBA が注目する賃金の推移が不透明だ。今回の雇用統計の詳細を見ても、失業まではつながっていないがデルタ株感染対策のロックダウンの影響で月間の労働時間が 1.8%減少している。ビクトリア州にいたっては労働時間が 8.4%減少している。労働時間減少などによる所得の減少などが懸念材料としては残りそうだ。

来週は 20 日に RBA 理事会議事要旨が公表され、21 日に 6 月小売売上高などが発表予定となっている。議事要旨では市場のサプライズとなる可能性もあるが、その他予定されている指標は少ない。豪ドルが動意づくのは難しそうだ。

南アフリカ・ランド (ZAR) は上値が限られるか。資産運用会社の株式と通貨の見直し引き下げ、ウイルス感染拡大によるロックダウンの延長など、ネガティブ要因が多い中での暴動の激化は南ア経済にとって大きな痛手となる。当初はズマ前大統領の支持者によるデモだったが、失業率が 32.5% (15-24 歳の若年層は 63.2%) まで高まっていることなどで、国民の不満が爆発したかたちになっている。暴動が一時的に収まったとしても、ウイルス感染が拡大するなか、ワクチン普及の遅れも目立つ。政情・経済不安も重なっていることから ZAR は売り場探しとなるか。

来週の最大の注目は 6 月の消費者物価指数 (CPI) と南ア準備銀行 (SARB) の MPC になる。CPI が前回 SARB 目標の中心地を上回ったことで、徐々に利上げ期待が高まっている。ナイドゥ SARB 副総裁は金利について「金融緩和政策を維持する」とした一方で、「現在はマイナス金利の状態、50 ベーシス利上げしても、まだマイナス金利」とも発言している。結果次第では不安定な動きとなる可能性もある。

7月12日週の回顧

豪ドルはほぼ横ばいの動きとなった。パウエル FRB 議長が米下院金融サービス委員会での証言で金融引き締めに慎重な姿勢を示したことで、米金利の動きに対して反応が敏感な円が買われたことで、豪ドル円は弱含んだ。6 月の豪雇用統計は失業率が市場予想より好結果となり、一時的に豪ドルが買われる場面もあったが、反応は限定的だった。

ZAR は大幅に下落した。週末にズマ前大統領の支持者によるデモが過激化し、略奪を繰り返すなど暴徒化したことで、ZAR 売り・南ア株売りとなった。ZAR は対円、対ドルともに 4 月以来の水準まで大きく下げ幅を広げた。(了)